

義務教育学校推進室だより

令和元年8月19日 第29号

先進校視察に行ってきました。



7月9日（火）に、義務教育学校の先進校である「長野県信濃町立信濃小中学校」へ視察に行ってきました。今回の視察には、3校の校長先生とPTA役員の方にもご参加いただき、1～9年生の児童生徒が実際に生活している校内の様子を見てきました。

校内の視察後には、質疑応答の時間を設けていただき、義務教育学校の成果や課題を直接伺うことができました。

【信濃町立信濃小中学校】

児童生徒数の減少と学校施設の老朽化という課題を背景に、平成24年に町内にあった5つの小学校と1つの中学校が統合され、小中一貫校として信濃小中学校が開校された。校舎は既存中学校の敷地内に建築され、町内で1つの学校となった。平成28年4月に義務教育学校（施設一体型）に移行し、学年段階の区切りを4-5としている。



【信濃小中学校の校長先生の話】

- 本校は児童生徒の「笑顔」が多く、特に後期課程の生徒の「優しさ」が際立っている。幅広い学年が交流する機会を設けているので、「他者を思いやる心」や「仲間意識の強さ」が育まれているからだと思う。
- 教科等の「系統性」を意識した効率的なカリキュラムづくりを心がけている。前期課程の学習を生かした後期課程の学習を行うことができ、学力向上が図られている。
- 「しなのスタイル」という学校内でのルール等の統一基準を作成し、教職員がそれを共有している。そのため、どの学年においても同様の指導が行き届いている。
- 小学校と中学校の文化の違いにより、教職員の中で意見が異なることもあったが、「何のために行うのか」という目的を明確にして議論を進めてきたため、本校の各種教育計画は子供たちにとって効果的な内容になっていると感じている。